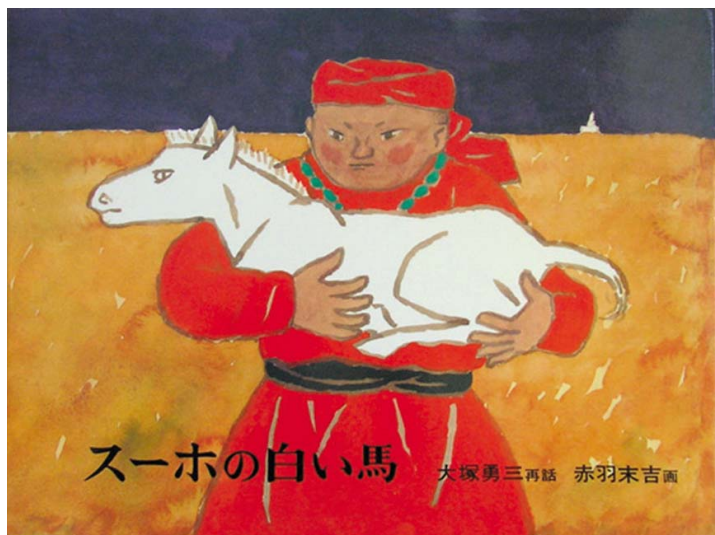




スーホの白い馬 ―モンゴル民話―

大塚勇三 再話

赤羽末吉 画

福音館書店 1967年 1200円

モンゴルに伝わる楽器、馬頭琴の由来を語った民話です。昔、モンゴルの草原にスーホという貧しい羊飼いの少年がいました。スーホは拾った白い子馬を立派に育て上げ、競馬の大会でみごと一等になります。ところが、殿さまはほうびを与えるという約束を破り、力づくで白馬までとりあげてしまいました。白馬は、矢を射られ傷つきながらもスーホのもとに逃げ帰りますが、そこで息絶えます。悲しみにくれるスーホの夢に白馬が現れ、自分の骨や皮や筋や毛を使って楽器を作るよう言いました。そうしてできた馬頭琴は、その美しい音色で聞く人の心を揺り動かし、やがてモンゴルの草原じゅうに広まりました。大判で横長の画面いっぱいに描かれた力強い絵が、広大なモンゴルの大平原と、スーホと白馬の深い愛情を描きだしています。



せいめいのれきし

バージニア・リー・バートン 文・絵
いしいももこ 訳

岩波書店 1964年 1600円

「地球じょうに、せいめいがうまれたときから、いままでのおはなし」を、「古生代」「中生代」「新生代」「現世」「このごろのひとびとの生活」の5幕36場の舞台劇の形式で描いた絵本です。ナレーターとして天文学者、地質学者、古生物学者、歴史家、おばあさん、最後には作者自身が舞台に登場します。「考えられないほど大昔、太陽がうまれ」た時から始まり、地球がうまれ、地球に生命がうまれ、動物がうまれ、人間がうまれ…そして「さあ、このあとは、あなたがたのおはなしです。その主人公はあなたがたです。」で終わります。作者のパートンは、この絵本を作るために8年をかけ、正確を期すため、アメリカ自然史博物館に通いつめました。宇宙・地球・生物・人間の歴史と生命のつながり、その輝きが、美しい精緻な絵で丹念に描かれています。



赤ちゃんのはなし

マリー・ホール・エッツ 文・絵
坪井郁美 訳

福音館書店 1982年 1400円

小さな生命のもとがお母さんのお腹のなかで育ち、赤ちゃんとして生まれるまでが、白黒のさし絵とともに目を追って丁寧に書かれています。何十年も何百年も続いていく生命誕生の神秘を、科学的に、子どもにわかりやすく書いた本です。



いつもちくのおとこのこ

—ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー
ジョン・バーニンガム 作
たにかわしゅんたろう 訳

あかね書房 1988年 1456円

ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシーは、お勉強しに出かける途中で、ワニやライオンに出くわしたり、高潮にさらわれそうになったりして、いつも遅刻してしまいます。しかし、先生はまるで信じてくれずジョンに罰を与えます。ある日、なにも起こらずジョンが遅刻しないでたどりつくと、先生がゴリラに捕まっていました。それを見たジョンは…。

うまかたやまんば

おざわとしお 再話
赤羽末吉 画



福音館書店 1988年 1200円

むかし、ひとりのうまかたが、峠でやまんばに襲われました。やまんばはうまかたの積み荷を食い、馬の足を1本食い、2本食い、最後は馬をまるごと食ってしまいます。うまかたは必死で逃げて、一軒の家に逃げ込みます。ところが、それはやまんばの家だったのです。



星座を見つけよう

H・A・レイ 文・絵

草下英明 訳

福音館書店 1969年 1500円

実際の空で星座を見つけるための知識や方法を、わかりやすくまとめた本です。星座にまつわる神話、星図の見方、星の動き方などが、親しみやすいイラストで説明されています。かわいらしい2人の案内役があちこちに出てきたり、星座の名前を当てるクイズがあったりして楽しく読めます。



にぐるまひいて

ドナルド・ホール 文

バーバラ・クーニー 絵

もきかずこ 訳

ほるぶ出版 1980年 1400円

10月、父さんは一年間に家族が作ったり育てたりした口ウソクやほうき、じゃがいもやリンゴなどを荷車に積み込んで、ポーツマスの市場へ売りに行きます。荷車や牛まで全部売ってしまうと、鍋や針など家族への必需品を買って家に帰ります。そしてまた、新しい一年が始まるのです。



ねずみのとうさんアナトール

イブ・タイタス 文

ポール・ガルドン 絵

晴海耕平 訳

童話館出版 1995年 1300円

ねずみのアナトールは、パリの近くで家族と暮らしていました。ある日、ねずみは汚くてフランスの恥だと人間が話しているのを聞きます。アナトールは汚名を返上するため、こっそりチーズ工場で試食し、「アナトール」と書いたアドバイスの札を立てました。そのおかげで会社は大繁盛し、社長はぜひお礼をしようと、「アナトール」を探します。



ぶたのめいかしゅローランド

ウィリアム・スタイク 〔作〕

せたていじ 訳

評論社 1975年 1300円

ぶたのローランドは歌の天才です。あるとき、天下の名歌手になろうと旅に出た先で、きつねのセバスチャンに出会います。王様の御前で歌わせてあげると言われ、喜んだローランドは、きつねといっしょに宮殿へ向かうことにしました。ところが、きつねは隙あらばローランドを食べてしまおうと企んでいたのです。

ペニーさん

マリー・ホール・エッツ 作・絵

松岡享子 訳



徳間書店 1997年 1300円

貧しい独り者のペニーさんは、飼っている動物たちを家族のように大切に暮らしていました。ある日、この動物たちが、お隣さんの畑の作物を食い荒らしてしまいます。怒ったお隣さんの出した難題に困り果てたペニーさんの姿を見て、なまけ者の動物たちは…。シリーズには「ペニーさんと動物家族」があります。

みどりおばさん、ちやいろおばさん、 むらさきおばさん

エルサ・ベスコフ 作・絵

ひしきあきらこ 訳



福音館書店 2001年 1300円

いつもそれぞれ同じ色の服を着ているので、服の色であだ名がついた3人のおばさんが、小さな家でいっしょに暮らしていました。ある日、おばさん達の犬ブリックが散歩中に行方不明になってしまいます。おばさん達は手分けして探しに行きますが…。シリーズは「ちやいろおばさんのたんじょうび」など全5冊です。



ものぐさトミー

ペーン・デュボア 文・絵
松岡享子 訳

岩波書店 1977年 880円

トミー・ナマケンボは電気じかけの家にすんでいます。朝おひさまがのぼると、ベッドが自動的に傾いてトミーを電気水かきまわし機付きのおふろへ入れます。体を洗うのも乾かすのも、歯みがきも着替えもごはんも、全部機械がしてくれるのです。ところがある夜、電線が切れて機械が動かなくなっていました。



山のクリスマス

ルドウィヒ・ベームエルマンズ 文・絵
光吉夏弥 訳編

岩波書店 1953年 900円

町の子ハンシは、クリスマスのお休みに、チロルの山に住むハーマンおじさんの家に招かれました。ハンシは、いとこのリーザールや犬のワルドルといっしょに、山での生活を過ごします。クリスマスのお菓子を作ったり、スキーをしたり、初めての山のクリスマスは、驚きと楽しさに満ちていました。